

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！12月末時点で、第2期生8名が海外留学中です！

知事感謝状を贈呈しました（大和証券株式会社）

大和証券(株)様から、基金に対する100万円の協賛金をいただき、12月18日に、道から知事感謝状を贈呈いたしました。

大和証券(株)様では、CSR活動として自治体の地域イベント等に対して協賛する取組を実施しており、昨年度は、当基金の他に、北海道150年事業に対してもご協賛をいただいております。



みらチャレ応援企画が始まっています！



イオン北海道(株)様、マックスバリュ北海道(株)様では、2019年1月20日まで、道内の「イオン」、「イオンスーパーセンター」、「まいばすけっと」、「マックスバリュ」、「ザ・ビック」等の店舗に募金箱を設置し、募った募金を基金に寄附する「ほっかいどう未来チャレンジ応援募金」を実施しています。



アサヒビール(株)様では、「世界へ羽け！北海道の未来応援キャンペーン」として、2019年1月末まで、北海道限定商品「ブラックニッカ ハイボール香る夜」の売り上げ1本につき1円を、基金の「スポーツコース」にご寄附いただく取組を実施しています。



NORTHCREATE様のご協力により、ご家庭や会社で不要になった本等を寄贈することで、その査定額全額が基金に寄附される、古本募金「ハピぼん」の取組を通年実施しています。

【寄贈対象】本、CD、DVD、書き損じハガキ、未使用切手等
【寄贈方法】「ハピぼん」ホームページから集荷を依頼
(送料はハピぼんが負担)

第1期生が大学で留学経験を講演しました！

先月に引き続き、北海道大学、帯広畜産大学、札幌国際大学でみらチャレの制度説明会を実施し、合計で86名の学生が参加しました。

第1期生の高橋さん、中川さんが留学経験について講演したほか、12月25日から留学を開始する第2期生の星野さんも、留学を志した理由やみらチャレに応募した経緯などについて講演しました。

北海道大学



帯広畜産大学



12月から留学を開始する第2期生を紹介します



学生留学コース

- 氏名 星野 愛里花 さん
- 所属 北海道大学修士2年
- 留学先 キルギス
- 研修期間 2018年12月～(12か月間)

○留学目的

キルギスにおける地域農産物の生産・流通に関する調査と北海道との農産物の輸出入可能性を探る。また、農民組織の事業体制を学び、北海道の農業に活かせる点を見出す。

○北海道への貢献

留学により得られる人脈や知見等を活かし、北海道の農業が今後も発展していくためのヒント・アイデアを持ち帰りたい。

学生留学コース

第2期生 伊藤 昂 さん アメリカ、オランダ、オーストラリア ～スポーツビジネスを学び、北海道のテニス界の国際化に貢献～

テニスの国際大会が開催されるアメリカ、オーストラリア、オランダの3か国に、10月から10か月間留学中。

今月は、UQ Tennis clubのオーストラリア独自の運営方法Fixtureやトーナメントの運営を学びました。数か月にわたり毎週行われる試合の日時はFIX（固定）されていて、ダブルス、シングルス2試合ずつで、最低2人いれば出場できます。欠場する選手がいても、助っ人を呼ぶことができる仕組みになっています。



第2期生 立岩 文武 さん オーストラリア（タスマニア）～大規模農業の手法を学び、北海道農業の持続を目指す～

大規模農業が進んだオーストラリアタスマニア州に、9月から10か月間留学中。

トラクターにGPSを利用した自動操舵機能が付いていますが、11月から準天頂衛星「みちびき」のサービスが開始され、従来より安くこの機能が利用できるようになっています。オーストラリア上空も飛んでおり、こちらの人たちがこの技術についてどう思っているか気になるので、来月はみちびきをテーマにプレゼンをしたいと思っています。



第2期生 林 泰佑 さん フィンランド (エスポー)

～木造建築技術を学び、海外との架け橋となる建築家を目指す～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、9月から1年間、アアルト大学のウッドプログラムを受講。

高さ2.2m以上、占有面積1.5m×1.5m以内のフレームを1時間以内に組み立てられるようにデザインする「frame」の課題に取り組みました。僕たちのグループは、異なる形の底面と上面を組み合わせることで、側面が捻れるような面白い表情を見せるフレームを作りました。三角形を上面と側面に作ることで強度を持たせ、メンバー4人全員がフレームにぶら下がっても壊れない強度のものを作ることができました。



スポーツコース

第2期生 梅村 拓未 さん ドイツ (ハイデルベルク)

～バルシューレを学び、子どもの運動課題を解決～

バルシューレの創設元ハイデルベルク大学で、7月から11か月間研修中。

11月は、小学校の授業で実施されているバルシューレを見学しました。知的障がいのある子どもとない子どもが一緒にバルシューレを行う授業も見学し、指導者がメニューを組む際に配慮すべき点や、声かけの方法について、端緒を掴むことができました。他にも、町のロータリークラブが小学校と提携し、施設や用具を提供している例も見学することができました。日本でもこのような提携事例はありますが、非常に少ない状況です。しかしドイツでは、人口16万人のハイデルベルクだけを見ても、数多く見ることができます。



文化芸術コース

第2期生 鴻野 祐 さん フィンランド (エスポーほか)

～「木」を深く学び、デザイナーとしてまちづくりに貢献～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、7月から1年間、現地リサーチとアアルト大学のウッドプログラムを受講。

駅の待合室の設計プロジェクトは、イメージスケッチから始まり、1/50の模型を製作し実際のスケール感、建築物の強度などを確かめながら進めています。私の案のコンセプトは、どのようにして駅と街を繋ぐかということで、電車の本数が少ないコリア駅にとって、待合所は電車を待つだけの場所ではなく、街の人々にとってのコミュニケーションスペースでもあります。このコンセプトは日本でも常に大事にしており、今回も多くの方が気持ちいいと感じてもらえる場所を作りたいと思います。



未来の匠コース

第2期生 今村 直史 さん ニュージーランド (マルボロ)

～ブドウの栽培技術を磨き、北海道を一大ワイン産地に～

ワイン用ブドウを4品種栽培する現地ワイナリーで、11月から5か月間、北海道で未確立の栽培技術を修得中。

ニュージーランドを世界的なワイン産出国として飛躍させたソービニオン・ブラン種の一大銘醸地マルボロ地方のChurton winesで研修を開始しました。17の区画に分けられた畑は、それぞれ方角、斜度の異なる斜面で形成され非常に起伏に富んだ地形をしており、その複雑な地形の特徴に合わせた品種の植栽がなされています。また、マルボロ地方に数多くある他のワイナリーよりも積極的に有機栽培やバイオダイナミック農法を取り入れた循環型、持続可能な発展を目指した農業を行っています。



第2期生 服部 大地 さん イタリア (フィレンツェ)

～地産地消の調理法を学び、北海道の食の魅力を深化～

スローフード発祥の地イタリアの料理学校やレストランで、9月から6か月間、地域資源を活かした調理法を修得中。

11月上旬は、トスカーナの田舎に位置する生ハム工場とチーズ工場を視察しました。生ハムはチンタスネーゼという、この地区のみで飼育している豚で作っていて、身体が凄く大きく脂身も多いなど、日本の豚との違いに圧倒されました。11月末からは、レストランでの研修が始まりました。HACCPを受講してテストに合格しないと働けないので、まず、試験を受け、無事合格しました。地元の鶴居村でも作っているピーツを使ったパスタや、醤油を使ったデザートなど、身近な料理も作っているため、とても勉強になります。



応援パートナーの皆様

(平成30年12月現在・敬称略)

北海道総合政策部政策局総合教育推進室

TEL : 011-206-7380 (直通) FAX : 011-232-6313

E-mail : mirai.jinzai@pref.hokkaido.lg.jp

ホームページ : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>



助成対象者のチャレンジ風景をお届けします。

